家庭学習・学習習慣・学習意欲の育成とノート指導（2）

草野啓顕*・山下直子**・桒原昭徳・竹下真生***・鈴木　幸****

Upbringing and Notebook Guidance of Home Learning,
a Learning Custom and Learning Will（2）

KUSANO Hiroaki・YAMASHITA Naoko・KUWAHARA Akinori・
TAKESHITA Maki・SUZUKI Saki

(Received　2006)

キーワード：家庭学習・学習習慣・学習意欲・ノート指導

0　はじめに

本論は、北九州市教育委員会が平成18年１月締切で募集した「平成17年度教育研究論文」に応募した草野啓顕の論文が元になっている。草野は2005年１月に発足した「北九州わかる授業研究会」の若手メンバーとして参加するうちに、上記の論文募集に応じて論文を執筆することを思い立ち、同年9月の定例会で試案を発表した。その時点では、自分の実践とは離れた抽象的なテーマであった。しかし、山下直子をはじめ桒原ほか会員の助言を聞くうちに、自己の算数科ノート指導の実践を新たに開始しながら、同時に論文化を進める方向で執筆が開始された。その意味で、本論は共同研究の成果である。

1　主題設定の理由

（1）社会的背景から

平成17年10月に中央教育審議会から文部科学大臣に提出した「新しい時代の義務教育を創造する」（答申）の中の教育内容の改善「学習指導要領の見直し」の中で、「学ぶ意欲の向上」「学習習慣の確立」があげられている。平成16年12月にOECDが行ったPISA調査によると、我が国の子どもたちの学力は、国際的に見て成績は上位にあるものの、①判断力や表現力が十分に身に付いていないこと、②勉強が好きだと思う子どもが少ないなど、学習意欲が必ずしも高くないこと、③学校の授業以外の勉強時間が少ないなど、学習習慣が十分身に付いていないことなどの点で課題が指摘されている。

このような課題をもつ子どもの学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせる指導を行うことは大切であり、時代の要請にも応えたものである。

*　北九州市立永犬丸小学校常勤講師
**　北九州市立赤坂小学校教諭
***　山口大学大学院教育学研究科修士課程
****山口大学大学院教育学研究科修士課程

（2）学校教育目標の実現から

心身ともに調和のとれた人格の形成を目指し、
人間性豊かな子どもを育成する。

○　正しい判断力、創造性の育成・・心豊かな子ども
○　健康や体力の増進　・・・・・・たくましい子ども
○　基礎的な技能・知識の習得・・・よく考える子ども

基礎的な技能・知識の習得をさせるためにも、まずは、学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせることが大切である。これらの資質や能力を身につけることで、基礎的な技能・知識を習得し、活用できるよく考える子どもが育っていくものと考える。

（3）主題の意味するもの

《学習意欲とは》
「自発的に学習活動を展開し遂行しようと意欲をもつこと」とする。
《学習習慣とは》
「授業中の自主的な学習や家庭での自主的な学習が習慣化すること」ととらえる。本研究では、主に「家庭での自主的な学習が習慣化すること」ととらえる。
《家庭学習とは》
○家庭で取り組ませるための教師からの課題（以下、「宿題」と呼ぶ）
○家庭で子どもが自主的に取り組む学習とする。

2　これまでの指導の反省と本研究の取り組みの視点

【1学期の家庭学習についての指導における子どもの実態と教師の手だて及び振り返り】

子どもの実態

○　学校での学習には、前向きに取り組むことができるが、家庭での学習については、宿題に取り組むだけで満足してしまう子どもが多い。また、家庭ではほとんど学習せず、宿題も翌朝、登校してきて取り組む子どもも数名いる。
○　学習した内容を、家庭で振り返って学習しようとしたり、間違えた問題に対して自主的に乗り越えようとしたりする子どもが少ない。
○　家庭学習には、あまり意欲的ではなく、まだ、自ら進んで継続して行うまでには至っていない。

↓

教師の手だて

①　子どもに学習への意欲をもたせるために、新しい「家庭学習ノート」を全員でそろえて使い始め、その際にノートの使い方を指導する。
　ー家庭学習ノートの使い方ー
　　・ノートを使い始めた日付や、第○号と記入する。
　　・宿題だけでなく、自分で考えて行った学習を書いてよい「家庭学習ノート」である。
②　授業後にノートを集めて、家庭学習につながる学習内容が書かれているかを確認する。書いていない箇所などがあった場合には、言葉かけをしたり、ノートにコメントを書き入

れたりして、指導する。
③　翌朝、宿題を提出させ、教師が教室でチェックする。

↓

教師の手だてと子どもの活動のよさ

○　家庭学習ノートを使って家庭学習を進めることで、学習に対する意欲が増した。
○　家庭で自分なりに学習に取り組む子どもが少しずつ増え始めた。
○　宿題を朝、教室ですませる子どもが減少した。
○　教師が宿題を確実に確認することによって、支援を要する子どもに速やかに対応することができた。

↓

子どもの活動の様子から見える課題

●　子どもの多くは、書き直したり、書き足したりしていたが、中には言われたからしぶしぶやっているという様子の子どももいた。
●　教師が、徐々に支援を要する子どものほうにばかりとらわれて、ほめるべき子どもへの対応が不十分になっていった。
●　改善が見られた子どもに対して、その成長を価値付けることが不足していた。その結果、せっかく高まりつつあった意欲を下げることになっていった。意欲の低下に伴って家庭学習も「宿題だけをする」という方向に流れていった。
※　「身につけるために練習しよう」という教師側の願いをストレートに出したことが、子どもにとって負荷になっていたのではないか。つまり、「先生に言われたから、身につけるためだからしょうがない」と、自分の気持ちを納得させながら取り組み、一生懸命取り組んだ結果、「やっとできた。」となり、「学習はつらくて当たり前」という意識を植え込んでしまったのではないだろうか。

↓

本研究の取り組みのねらい

○　子どもの学習意欲を高め、主体的に楽しく家庭学習に取り組めるようにする。
→方策(1)(2)(3)(4)(7)
○　子どもの学習への取り組みを、多様な方法で評価することで、学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせる。　→方策(5)(6)

↓

研究主題追求のための方策

実践例〔算数科　5年生　分数〕
（1）意欲を高める家庭学習ノートとの出会いの場の工夫
（2）家庭学習ノートの書き方の指導の工夫
（3）家庭学習の行い方の指導の工夫
（4）楽しく家庭学習に取り組むためのコメントと言葉かけの工夫
（5）学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるための、子ども同士の相互評価の工夫
（6）達成感や充実感を味わわせる自分の家庭学習についての振り返りの工夫
（7）学習習慣化を促す環境づくりの工夫

3　具体的な取り組み

（1）意欲を高める家庭学習ノートとの出会いの場の工夫（資料①）

家庭学習は、家で行うことが中心になるため、最初の意欲づけが大切だと考えた。

そこで、新しいノートを、子どもの関心が向きやすいように、教室の後方に、並べておいた。そのノートを黙って、教卓に移動させると、子どもたちは、「やったあ」「もらえるんですか」と、目を輝かせた。そして、静かに配布した。表紙に「算数、5‐1、H17.12.1、第1号と、一つ一つゆっくりと丁寧に書かせていった。その際に机間指導をし、ていねいに書いている子どもや文字の濃さ、鉛筆の持ち方、姿勢などをほめ、紹介していった。この活動は、教室内を落ち着いた空気で満たし、関心を高めるだけでなく、これから使い始める家庭学習ノートの１ページ１ページを大切に使ってくことを間接的に伝えるためである。

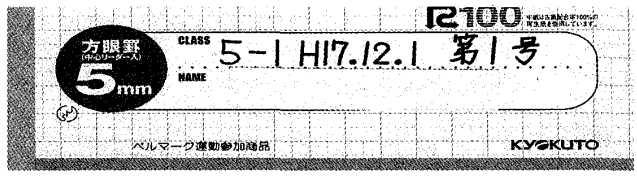
家庭学習ノートの使い方として主に「家庭学習」で使うことを伝えると、すぐに「復習とかもしていいですか。」という発言があった。学習意欲が高まるように、意欲的な発言を大いに認め、いろいろ工夫しながら、第２号、第３号と使い進めてよいことを付け加えた。すると、「２学期で１冊終わらせよう」「家で勉強すれば（20日間で）できるよ」と目標を、子ども達は口々に言った。子ども達は、「たくさん勉強して、たくさん家庭学習ノートに書いてみたい」と意欲を高めた。こうして、自分なりのめあてをもつことができた子ども達は、家庭学習への意欲を高めていった。

資料①【実践例１】
家庭学習ノートとの出会い
第１時『７　分数』「①等しい分数」
◎主眼　分数には、分母や分子がちがう大きさの等しい分数があることを理解する。

教師の働きかけ・発問　児童の活動・反応

T：（教室の後方に、１週間前から並べていたノートを、教卓に持ってくる。）
C：やっぱり配るんだ。
C：やったあ。
C：もらえるんですか。
C：青がいい。
T：（ノート配布後、１冊を手にとり）ここ「算数」。・・・ここに「５－１」。・・・「名前」。・・・ここには、今日の日付「H17．１２．１」と書いてください。そして、最後に・・・「第１号」と、ゆっくりていねいに書いてください。
C：（１つ１つていねいに記入する。）
T：Aさん、１画１画ていねいに書いていますね。
T：Bさんの文字は、上と下がきちんとそろっていてきれいですね。みんなに見せていいかな？（手にとって見せながら）Bさんの書き方はバランスがいいです。これはね、文字の上と下がそろっているからなんですよ。きれいだね。このようにノートを書くといいですね。

【使い始めた日付や第１号と書かれたD児のノート】

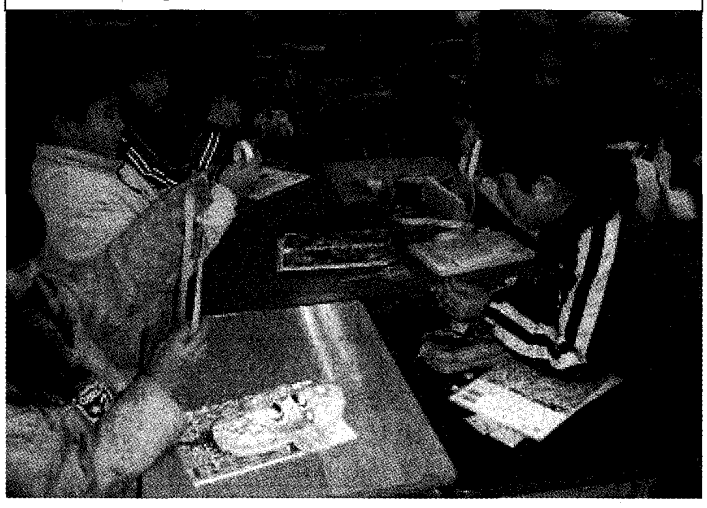


C：すごい。うまいなあ。
C：（より慎重に書き始める。）
（机間指導：ていねいに書いている子どもや文字の濃さ、鉛筆の持ち方、姿勢などをほめ、紹介する。）

T：では、お話してもいいですか。
C：はい。（よい姿勢になる。）
T：ノートをみいんなで新しくしたのは、みんなにもっと勉強する楽しさを知ってほしいと思ったからです。家庭での勉強につながる授業の内容はこのノートに書きますよね。宿題も書きますよね・・・それから、おうちで、自分が好きな勉強をする「家庭学習」でも使っていいと思います。
C：復習とかもしていいですか。
T：おっいいですね。いろいろな工夫をして、どんどん使い、第２号、第３号と進めてください。
C：２学期で１冊終わらせよう。
C：あと２０日くらいしかないけ無理やろう。
C：いや、できるかも。
C：できるよ。家で勉強すれば。

（2）家庭学習ノートの書き方の指導の工夫

資料②　作業的活動に取り組む子どもたち



資料③　子どもたちが紙テープを並べて貼った黒板

普段授業で使う学習ノートに比べて、家庭学習ノートは、書き方が雑であった。そのため、計算ミスや漢字の書き間違いなども多かった。そこで、本実践では、まず、家庭学習ノートを使い始める前に、ノートの基本的な書き方を指導することにした。

「①等しい分数」では、同じ班の友達と活動させた。１ｍの紙テープをもとに、1／2ｍ、2／4ｍ、4／8ｍ、1／3ｍ、2／6ｍをはさみで切って作らせたり、黒板に貼らせたりしながら、等しい分数を実感的にわかるように作業的活動（資料②）を設定した。「板書されたみんなで出し合った考え（資料③）をノートに書き写す方法はないかな。」と、問いかけた。すると、「１ｍを10㎝にしたらいいよ。」という発言があり、この言葉をきっかけに、子どもたちは、一斉に１ｍを10㎝にしながら、家庭学習ノートに書き始めた。「定規を使って丁寧に線を引くこと」・「分数の書き方」・「数字の間隔のあけ方」などについて指導した。丁寧にわかりやすく書いているノートを子ども達に紹介した。子ども達は、家庭学習ノートの書き方について、初めにきちんと指導されることで、どのように書いていけばよいのか、イメージをもつことができ、「早く書きたい」と意欲を高めることができた。

（3）家庭学習の行い方の指導の工夫

今までは、授業中の学習内容が理解しきっていないまま、その内容が「家庭で取り組ませるための教師からの課題」（以下、宿題と呼ぶ）として出されることがあった。そのため、家庭で宿題をしようにも、内容を理解してないために、宿題ができない子どもが数人いた。

そこで、本実践では、学校での学習終盤に（資料④）にある

資料④
【実践例２】子どもが課題解決の見通しを持つ場面
第１時『７　分数』「①等しい分数」
◎主眼　分数には、分母や分子がちがう大きさの等しい分数があることを理解する。

Ｔ：1／2や1／3に等しい分数をたくさん見つけることができましたよね。
　　では、1／5に等しい分数は見つけることはできるかな。
Ｃ：できる。
Ｃ：かんたん。2／10、3／15・・・。
Ｔ：そうだね。それを今日の宿題にしましょうか。
Ｃ：何個ですか。
Ｃ：何個でもいいですか。
Ｔ：「何個でもいいですね。何個ぐらい書けるかな。」
Ｃ：何個でも書けるよ。
Ｔ：あっ、そうだ。何か気づいたことや、発見があったら書いてもいいですよ。」

ように、1／2や1／3に等しい分数をたくさん見つけさせたあとに、「1／5に等しい分数は見つけることはできるかな。」と発問し、子どもに「2／10、3／15・・・」といくつか答えさせることで解決の見通しをもたせてから、残りを宿題として出した。このように、学習の終盤に少し宿題につながる内容を入れ、宿題をノートに書かせることで、今まで、宿題をしてこなかった子どもも、「先生、学校で少し勉強していたから、宿題がわかったよ」と喜んで、進んで宿題をしてくるようになった。

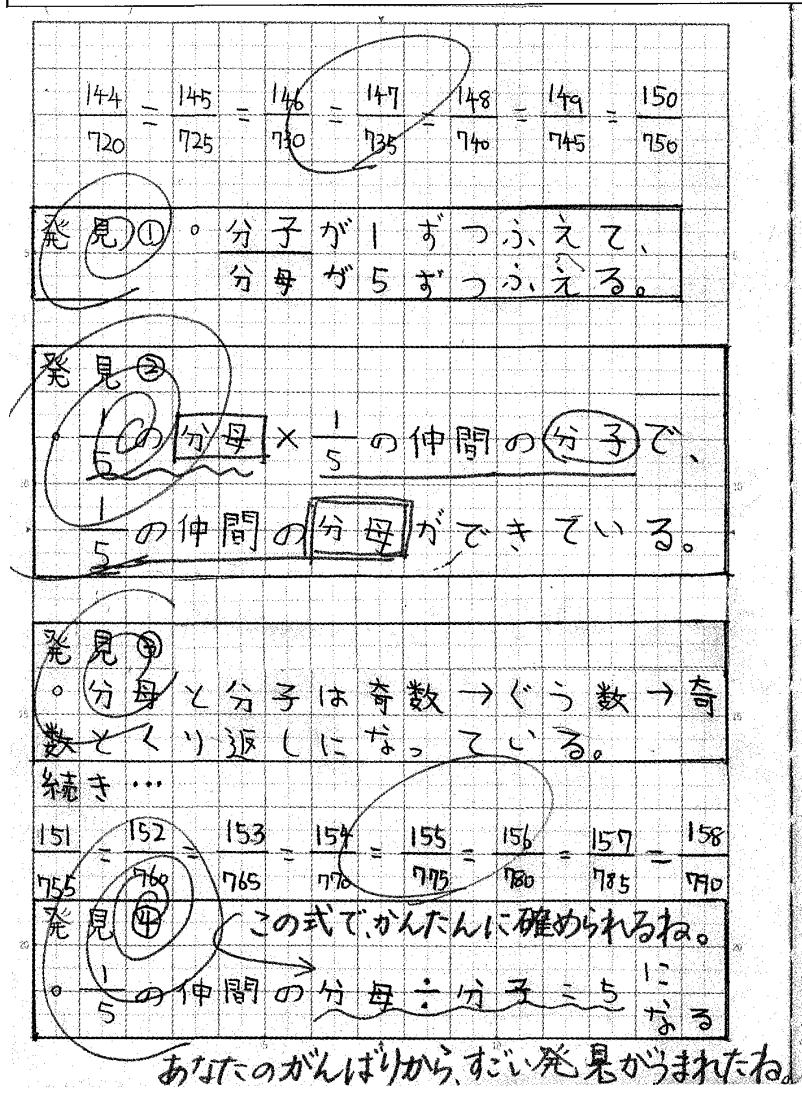
（4）楽しく家庭学習に取り組むためのコメントと言葉かけの工夫

～K児の例～

K児は、理解力はあるが、宿題をするだけで、それ以上はする子どもではなかった。授業が終わった後に、教師からK児の意欲が高まるように、声をかけた。（資料⑤）すると、今回の「1／5と等しい分数をみつける」という宿題では、K児は、「1／5、2／10、3／15・・・400／2000」まで、400個の分数をとてもていねいに書いていた。しかも、（資料⑥）にあるように、分母と分子の変化に着目し、規則性を見つけ、その特徴を書くことができた。

資料⑤　授業後のK児への声かけ
T：「Kさん、何こぐらい書けそう？」 K：「何こでも、よゆうでえす」 T：「それは、すごい30個くらいかな。 発見も楽しみにしてるね。」

資料⑥　翌日提出されたK児の家庭学習ノートより



～Ｙ児の例～

また、Ｙ児も、宿題のみで終わることが多かった。Ｙ児は、授業後に「せんせえい、家庭学習ノート、自由に使っていいんですよね」と、何か考えがあるような口調で言って来た。そこで、教師は、「楽しみにしてるよ」と言葉を返した。すると、Ｙ児は、にこっと微笑んだ。次の日、Ｙ児は、家庭学習として、1／5以外の分数（1／10や1／7）と等しい分数をいくつも書いて来た。「自分で問題をつくるなんて、すごいね。」と、Ｙ児のノートにコメントを書き、Ｙ児のがんばりを賞賛した。Ｙ児は、コメントをうれしそうに読んでいた。

～Ｓ児の例～

以前は、「算数好かん」といって、採点後返されたテストの書き直しさえいい加減に取り組んでいたＳ児だった。ところが、授業後、Ｓ児は、晴れやかな顔をしていた。そこで、教師が視線をＳ児の方に向けた。（資料⑦）すると、「ちょっとね、いいこと思いついた」とＳ児は楽しそうに言った。翌朝のＳ児の家庭学習ノートには既習の単元（「６．面積」「計算の見積もり」）の復習に取り組んだあとがあった。そこで「復習の達人だね！！」とコメントを書き込み、学級の子どもたちにもＳ児のがんばりをほめて、紹介した。

資料⑦　Ｓ児の意欲的な発言を受けて
Ｓ：「ちょっとね、いいこと思いついた。」 Ｔ：「えっ、どんなこと。教えて。」 Ｓ：「復習する。」 Ｔ：「それは、いい考えだ。忘れそうだなあと思ったところを、ちょっとやってみるってね、すごおく大事なことなんだよ。よく気がついたねえ。」 Ｓ：「すごい？すごい？」 Ｔ：何度もうなずく。

このようにして、がんばって自ら進んで家庭学習をする子どもたちをほめたり、価値付けて周りの子どもに紹介したりした。また、量の多少にかかわらず、子ども一人一人のノートに励ましや、賞賛、アドバイスなどのコメントを書いた。

ノートの書き方や学習への取り組み方などについて、指導を要する子どもに対しては、実際の方法を授業の終盤や授業中に紹介して、間接的に指導することを心がけた。些細なことでも、良いところや成長したところを見つけて、ほめることで、自信や意欲をもたせ、少しでも主体的に学習に取り組めるように指導・支援した。また、なるべく、ノートには児童の努力のあとと、それを認める教師のコメントが残るようにした。

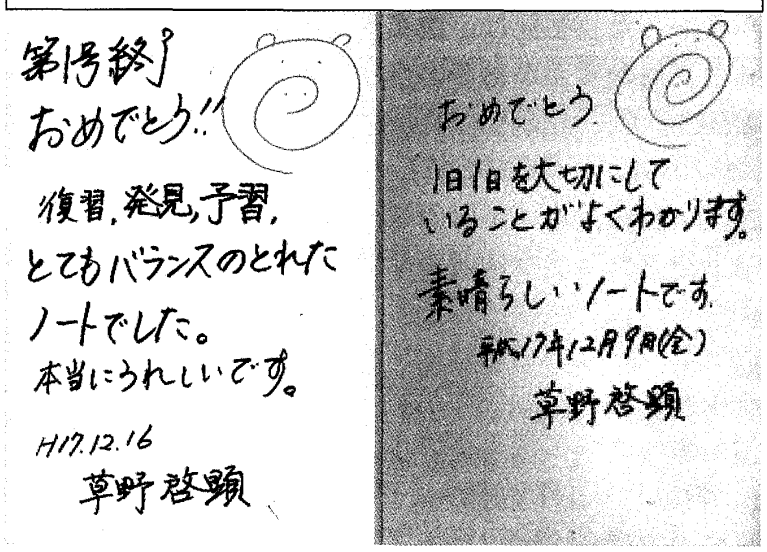
これらのことにより、児童は教師からのコメントが楽しみになり、教師の言葉かけを喜び、家庭学習に意欲的に取り組み、自分なりの工夫をする子どもが増えてきた。

～クラス全体に対するコメントや言葉かけについて～

第２時（「同分母分数の加法の計算の仕方」を考え、その計算ができるようにする場面。）では、プリントもノートに貼って、家庭学習ノートの一部として組み込ませた。そして、子どもに見通しをもって、学習に取り組ませようと、「宿題の答え合わせは、朝、登校し、教室の黒板の答えを見ながらしてください。もう、自分達だけでも、どんどん勉強できるよね」と声をかけた。そのことにより、以前は、運動場に遊びに行くことが一番大事だった子ども達が、翌日の朝は、プリントが貼られたノートに、子ども達自身の手で意欲的に丸つけを行うことができた。

また、家庭学習で自主的に復習に取り組む児童が増えた。「？ぎもん？分母がちがう、たし算はどうしたらいいのだろう」と書いてきた児童がいたので、コメントとして「いいところに気がついたね。疑問に思ったことがすごくいいですね。」と書き、授業の初めに「こんなこと

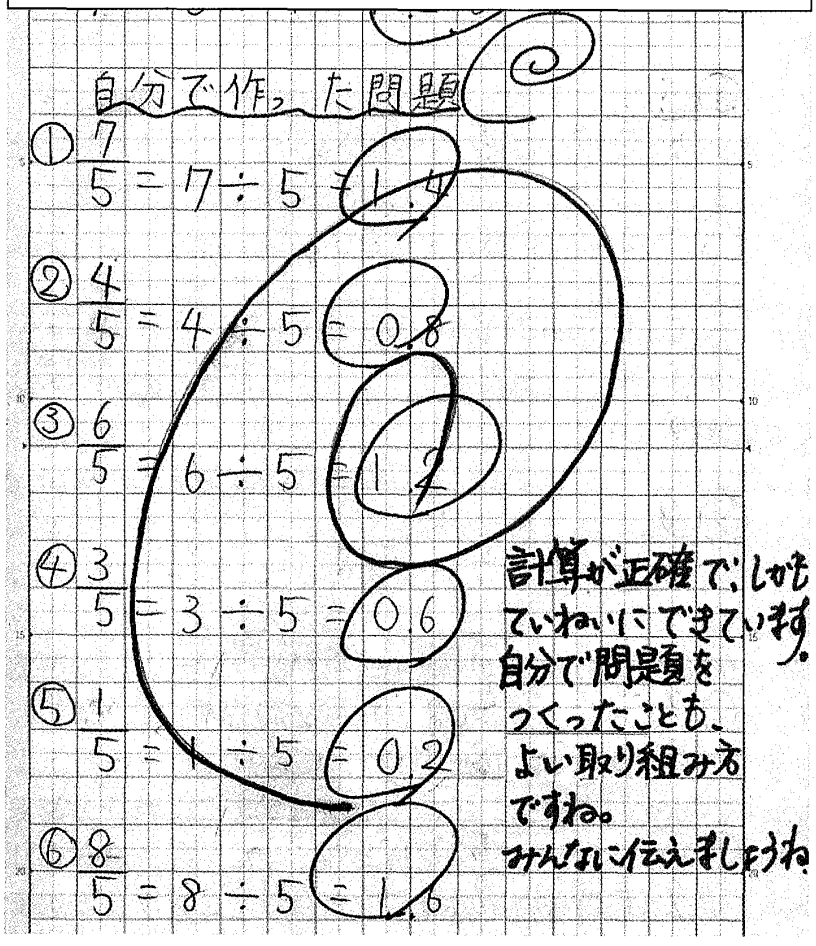
資料⑧　ノートを使い終えた子どもへのメッセージ



を書いた人がいます。『ぎもん　分母がちがう・・・』これは、6年生で勉強することなんですよ。すごいことに気付きましたね。」とクラスの子ども全員に紹介した。このことが、気づいたことを書き留めるだけでなく、新たに生まれた疑問を書き留める動機付けとなった。これをきっかけに、たくさんの子どもたちが、自分なりに考えて家庭学習をしてくるようになった。今まで、宿題しかしなかったある児童は、中学生の姉に聞きながら、6年生の内容である「通分」に挑戦していた。

第3時の「分数のひき算」も「分数のたし算」と同様の宿題プリントを用意した。また、この日のT児のノートには、『？ぎもん？分数は□÷□で表せるのか。例えば、3／5は、□÷□で表せるのか。私はたぶん3／5は3÷5だと思う。』と書かれたものがあった。これは第4時「分数と整数の関係（2÷3＝2／3）」と、関係があったため、第4時の初めに「今日はまず、Tさんのぎもんを紹介します。」とクラスの全員の子どもに紹介し、学習の導入に使った。この紹介の後、次時の予習に取り組む児童が増え始めた。

資料⑨　自分で問題を作った子どもの家庭学習ノートと、教師からの賞賛のコメント



そして、1週間がたった12／9（金）U児が、第1号を使い終えた（資料⑧）。ノートの最後に大きくメッセージと日付を書き、第2号への動機付けとした。クラスの子どもたちにも、「1冊をU児は仕上げたけれど、この1冊にはU児の工夫がたくさんつまっているね。」と、紹介した。この後、第1号を使い終える児童が、次々に名乗り出た。

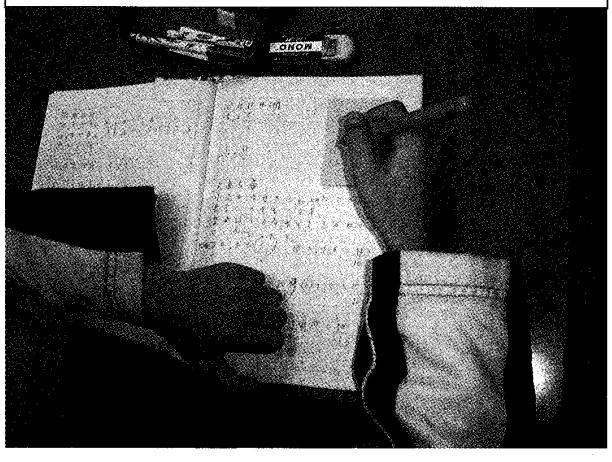
このようにして、教師の言葉かけやコメント（資料⑨）で、子ども達の家庭学習への意欲が高まり、持続し、次第に家庭学習が習慣化してきた。また、学校でも、徐々に、「登校→丸つけ→提出→朝の遊び（運動場など）」といった1日の始まりの流れの中に丸つけを通して、自分達で自主的に学習する習慣がついて

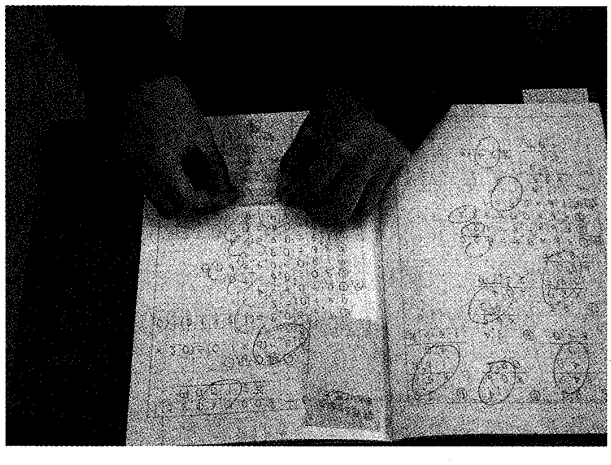
いった。

（5）学習意欲を高めるための子ども同士の相互評価の工夫

お互いのノートの使い方を評価することで、認められる喜びを味わわせたり、友達の取り組みのよさを自分の学習にも生かそうとする意欲を育てたりするために相互評価に取り組ませた。ふせん（4㎝×5㎝）を各班に2色（青・赤）用意し、「丁寧に書いている」「色をうまく使っている」などの表記面についての評価は青いふせん（資料⑩）に書かせた。また、発見や気づいたこと、そして、予習や復習など、自分なりに工夫をして家庭学習に取り組んでいるものについては赤いふせんに書かせた。

資料⑩
友達の学習のよいところを、ていねいに、ふせんに書き込んだり、貼ったりする子どもたち





そして、6～7人のグループを作り、15分間ほど、自分の家庭学習ノートと、同じグループの友達の家庭学習ノートを交換して、互いのよいところや工夫しているところをふせんに書いて、相手に渡し、認め合う活動を行った。机間指導をしながら、子ども達のがんばりを認めるとともに、学級全体に評価の場を拡げ、自分が評価した友達の家庭学習ノートのよさを発表し合った。（資料⑪）

教師は児童の発言の一つ一つを板書し、たくさんの友達のよさに気づくことができたことをほめ、価値づけた。

このようにして、お互いのノートの使い方を評価することで、子ども達は、認められる喜びを味わうことができた。そして、友達の取り組みのよさを自分の学習にも生かそうとする意欲が育ていった。

資料⑪　子ども達の発言と、子ども達の意欲であふれた黒板
C：復習だけじゃなくて、予習もしっかりしていました。 C：問題を自分で作っていて、まねしたいと思いました。 C：発見とか自分が思ったことを書いていました。 C：友達に問題を作ってもらっていました。 C：間の取り方も上手だし、定規もしっかり使って見やすいノートでした。　（一部抜粋）

（6）達成感や充実感を味わわせる自分の家庭学習についての振り返りの工夫

達成感や充実感を味わわせるために、自分の学習についての振り返りに取り組ませた。アンケートⅠ（4年生学年末の頃）Ⅱ（現在）の2種類に記入し、それぞれのアンケートを比べることで、自分の成長に気付くことができるようにした。その結果、下記のとおりになった。

資料⑫　アンケートⅠ：4年生のおわりのころの自分と、アンケートⅡ：今の自分をくらべて※記述欄で多かったものを一部抜粋
※アンケートの集計結果についてはまとめにて述べる

⑥　今まで、宿題は、家や学校でチェックされるので、しょうがなくやっていたが、今は、算数が好きになって、宿題が家で一人でもすぐにできるから、宿題や勉強を自分からやってみようと思うようになった。

⑦　ノートにきれいに書くことは、きらいでめんどくさかったけれど、できるようになっておもしろくなってきたからていねいに書きたいと思うようになりました。

⑩　ノートには黒板に先生が書いたことをただうつすだけだった。けれど、自分で工夫していろいろと書くことがなんだか楽しくなってきました。

その他：「勉強しないとおちつかない」「1学期は勉強が大嫌いだったけど、好きになった」「予習の達人になる」など

これは、高学年の子ども達の発達段階に応じた記述欄を設けることで、自分のがんばりが明確になり、達成感や成就感がより大きなものになると考えたからである。

（7）学習習慣化を促す環境づくりの工夫

学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるために、家庭学習を算数科以外の教科に広げてよいことに気づかせたり、家庭学習を促す環境をつくることで、子ども自らが気付き、考え、家庭学習を自主的に行うようにさせたりすることは有効であった。

4　成果

（1）意欲を高めるための家庭学習ノートとの出会いの場の工夫

家庭学習ノートの表紙に、「算数」、「氏名」、「日付」、「第１号」と書かせ、ノートとの出会いを大切にし、家庭学習ノートを単に宿題だけでなく、自主的な自分の学習にも使ってよいことを伝えることは、学習意欲を高め、家庭学習に主体的に取り組ませるために、有効であることがわかった。

（2）家庭学習ノートの書き方の指導の工夫

家庭学習ノートを使い始める前に、ノートの基本的な書き方を指導した。また、授業中にも「板書のみんなで出し合った考えをノートに書き写す方法はないかな。」と、意図的に家庭学習ノートを使う場面を設け、「定規を使って丁寧に線を引くこと」・「分数の書き方」・「数字と数字の間隔のあけ方」などについて指導した。そして、丁寧にわかりやすく書いているノートを紹介して、子ども達にほめて、紹介した。これらの手立ては、子ども達に、家庭学習ノートにどのように書いていけばよいのか、イメージをつかませたり、早く書きたいという意欲を高めたりすることにつながり、家庭学習に取り組ませるために有効な手立てであった。

（3）家庭学習の行い方の指導

学習の終盤に少し宿題につながる学習内容を入れ、解決の方法を確認させ、少し試しにやってみる活動を行ってから、その内容の続きを宿題で取り組ませた。このことは、学習内容の定着を図り、子どもが一人でも家庭学習を取り組み易くする手立てとして、有効であった。その結果、子ども一人一人が学習意欲を高め、主体的に家庭学習に取り組むようになった。

（4）楽しく家庭学習に取り組ませるためコメントと言葉かけの工夫

子どものがんばりやよさをコメントとして、家庭学習ノートに書き込んだり、声かけをして価値付けたり、学級全体に褒めて紹介したり、指導を要する子どもを間接的に指導したりすることは、子ども一人ひとりに意欲をもたせ、楽しく家庭学習に取り組ませるために効果的であった。

（5）学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるための、子ども同士の相互評価の工夫

ふせんを使って、子ども同士に相互評価をさせたり、子どもの評価を板書したりすることで、互いのがんばりや工夫などをクラス全員で共有化し、認め合うことにつながった。このことは、子ども自身のがんばりや工夫を自覚させ、学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるために有効であった。

（6）達成感や充実感を味わわせる自分の家庭学習についての振り返りの工夫

達成感や充実感を味わわせるために、アンケートⅠ（４年生学期末の頃）Ⅱ（現在）の２種類に記入し、高学年の子ども達の発達段階に応じた記述欄も設け、自分の学習についての振り返りに取り組ませたことは子ども一人一人に自分のがんばりや工夫について、価値付け、自覚

させ、自信と意欲をもたせることになった。また、いろいろな家庭学習の仕方を学ばせることにもなり、家庭学習の幅を広げることになった。

（7）学習習慣化を促す環境づくりの工夫

学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせるために、家庭学習を算数科以外の教科に広げてよいことに気づかせたり、家庭学習を促す環境をつくることで、子ども自らが気付き、考え、家庭学習を自主的に行うようにさせることができた。

5　課題

本実践は、子ども達なりの工夫を重ねながら家庭学習に取り組ませることから始まった。教師が意図的に、授業と家庭学習がつながるように細部に至るまで手立てを打った。これにより、子ども達もやや受け身ではあるが、自主的に家庭学習に取り組むことを通して、着実に学習習慣を身につけてきた。今後は教師自身が授業力を高めることで、子ども達にもっと考えさせたり、友達と考えを練り合わさせることで、学習力を高めていきたい。また、子ども達の学び方をもっと広げ、自ら学んで自ら工夫してノート等に整理し自主的に学習する能力を高めていきたい。

6　まとめ

１学期の家庭学習についての指導の反省から、本研究は始まった。そこで、学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせる家庭学習の在り方を本研究で深めるために、下記の２点を取り組みの中心に据えた。

○子どもの学習意欲を高め、主体的に楽しく家庭学習に取り組めるようにする。
→方策(1)(2)(3)(4)(7)
○子どもの学習への取り組みを、多様な方法で評価することで、学習意欲を高め、学習習慣を身につけさせる。
→方策(5)(6)

１学期と大きく変わったところは、学習意欲を高めるために、子どものがんばりを評価することに徹したことである。学習習慣を身につけさせるために、子ども一人一人の実態を、しっかりと見つめ、指導に生かしたり、教師、友達、自分自身の３つの視点から評価したりした、本研究の手立ては有効であったと確信する。これより、保護者からの手紙（資料⑭）と、アンケートの集計結果（資料⑮・⑯）をして、本研究のまとめとする。

資料⑭　保護者からの手紙より

◎　先生にほめられたことがとてもうれしいらしくて、そのつど家に帰って話してく　れます。このまま、他の教科も増やして、がんばってくれたらなあと思っています。　ありがとうございます。三学期も宜しくお願い致します。

資料⑮　アンケートⅠ（4年生おわりのころの自分を振り返って）と、
アンケートⅡ（現在の自分を振り返って）の集計結果

	A		B		C	
アンケートⅠの質問 （　）内はアンケートⅡの質問　単位（人）	4年生のおわりのころ	今	4年生のおわりのころ	今	4年生のおわりのころ	今
①算数の勉強は分かっていたと思いますか（分かりますか）。	11	24	16	14	11	0
②算数は好きでしたか（好きですか）。	11	27	17	11	10	0
③算数の勉強中、よく発表をしていましたか（いますか）。	6	15	15	13	16	10
⑤計算問題は好きでしたか（ですか）。	6	20	22	16	10	2
⑥宿題をほとんど忘れずにして、学校へ持ってきましたか（きますか）。	20	23	13	13	5	2
⑦家で、宿題を丁寧にしようとか、もっとたくさん書こうとか思ったことがありましたか（思いますか）。	5	21	24	17	9	0
⑧宿題がなくても、何かほかの勉強を毎日していましたか（いますか）。	2	10	20	26	16	2
⑨もっと勉強が分かるようになるために努力したいと思いましたか（思いますか）。	13	26	20	11	5	1
⑩ノートに工夫して書いて勉強することができましたか（できますか）。	11	24	22	14	5	0
⑪ノートに工夫をして書きながら、勉強することが好きでしたか（ですか）。	7	20	18	17	13	1
④算数の勉強で分からないとき、どうしていましたか（いますか）。	そのまま		友達に聞く		先生に聞く	
	8	1	10	11	3	9
	親や塾の先生に聞く		自分で本等を調べる			
	10	8	7	9		

資料⑯　アンケートⅠ・Ⅱより

Aが増加した項目　※（　　）はアンケートⅡの質問

①算数の勉強は分かっていたと思いますか（分かりますか）。
②算数は好きでしたか（好きですか）。
③算数の勉強中、よく発表をしていましたか（いますか）。
④算数の勉強で分からないとき、どうしていましたか（いますか）。
　「先生に聞く」の項目
⑤計算問題は好きでしたか（ですか）。
⑥宿題をほとんど忘れずにして、学校へ持ってきましたか（きますか）。
⑦家で、宿題を丁寧にしようとか、もっとたくさん書こうとか思ったことがありましたか（思いますか）。
⑧宿題がなくても、何かほかの勉強を毎日していましたか（いますか）。
⑨もっと勉強が分かるようになるために努力したいと思いましたか（思いますか）。
⑩ノートに工夫して書いて勉強することができましたか（できますか）。
⑪ノートに工夫をして書きながら、勉強することが好きでしたか（ですか）。

Cが減少した項目

①算数の勉強は分かっていたと思いますか（分かりますか）。
②算数は好きでしたか（好きですか）。
③算数の勉強中、よく発表をしていましたか（いますか）。
④算数の勉強で分からないとき、どうしていましたか（いますか）。
　「そのまま」の項目
⑤計算問題は好きでしたか（ですか）。
⑥宿題をほとんど忘れずにして、学校へ持ってきましたか（きますか）。
⑦家で、宿題を丁寧にしようとか、もっとたくさん書こうとか思ったことがありましたか（思いますか）。
⑧宿題がなくても、何かほかの勉強を毎日していましたか（いますか）。
⑨もっと勉強が分かるようになるために努力したいと思いましたか（思いますか）。
⑩ノートに工夫して書いて勉強することができましたか（できますか）。
⑪ノートに工夫をして書きながら、勉強することが好きでしたか（ですか）。

アンケートの考察

上記の結果から読みとれることは、まず、過半数の子どもが以前と比べ「算数の勉強がわかる」「ノートの使い方を工夫して勉強できた」とより強く実感するようになっているということである（①⑩）。これは、算数授業の中で子どもたち自身が「わかった！」「できた！」という実感を抱けるような学習活動が展開されてきたと同時に、子どもたちがその「わかった！」という実感をもう一度確かめ、定着させていく場として家庭学習が機能していたことを意味している。草野の家庭学習まで見通した授業指導は、認識過程と練習過程との良好な関係を築き、

結局は子どもたちの「わかる」「できる」に結びついていったのである。

また、「算数が好き」「計算問題が好き」「ノートを工夫するのが好き」という子どもが増加していることにも注目したい。(②⑤⑪) 子どもたちに勉強の面白さや楽しさを気付かせることも教師の仕事の範囲であることを、この結果が物語っている。

さらに、草野学級の子どもたちは、以前と比べよく発表するようになっていることがわかる。(③) 発表は、授業における子どもたちの言語コミュニケーション活動であり、子どもたちに発表の仕方や聞き方が身に付いていなければ、子どもたち相互のコミュニケーションは成立しない。草野学級の子どもたちは、授業の中で分数への理解を深めると同時に、授業への主体的参加の仕方（発表の仕方や発表の聞き方など）をも学んでいたのである。

子どもたちの「わかりたい」という気持ちこそ、学習への原動力である。勉強の楽しさを知った子どもは、「わかる」ための努力を惜しまないということも、このアンケート結果から読み取ることができよう。(⑥⑦⑧⑨)

8　草野実践に学ぶ授業技術

すでに、草野自身によって本論の「まとめ」はなされているが、本論の（1）および（2）を通して「草野実践に学ぶ授業技術」を以下に列挙しておきたい。

（1）子どもたちの活動エネルギーを発揮させたのは教師の「すること（仕事）」

本論で取り上げた草野実践は、新しいノートを教室の後ろに並べたことから始まった。教師がそのノートを黙って教卓の上に置いたとたんに、子どもたちは「やったあ」「もらえるんですか」などと言いながら、目を輝かせた。さらに、教師は「静かに配布した」のだという。教師は多くを「言葉」で語る必要はない。教師が子どもたちの前で「すること（仕事）」が、何よりも教師の気持ちを物語り、説得力を持つのである。

教師の寡黙な「すること（仕事）」は、子どもが目の前で見ることのできる前景であり、模様である。しかし、その背後にあるはずの地模様ともいうべき、教師・草野啓顕の誠実な生き様こそが、彼の繰り出す教育技術を支えていることを忘れてはならない。

（2）丁寧な指導が引き出すことがら

配布したノートの表紙には「算数、５－１、H17.12.1、第1号」の文字を「一つ一つゆっくりと丁寧に」書かせていったのだという。同じように、ノートに番号を付けて家庭学習の指導をしている教師はいるであろうが、この丁寧な指導が、その後の「前向きで積極的な」子どもの学習活動を引き出しているのである。ゆっくりと時間をかけ、子どもの納得づくで開始される活動は、子どものさらなる「思考活動」を誘発している。

その丁寧な活動が、その後の「2学期で1冊終わらせよう」「家で勉強すれば（20日間で）できるよ」などの、子ども自身による新たな企てや目論見を引き出すのである。

（3）子どもの現実を重視して「文化的活動」を引き出したこと

草野学級の子どもたちは、5年生の児童らしい「活動的なエネルギー」を失うことなく、持ち合わせていた。そのエネルギーを発揮できる正当な対象（学習内容）が準備されたことで、子どもたちは全エネルギーを注ぎ込んだのであった。

それまでにも「算数ノート」は子どもの目の前の机の上にあったはずであるが、2学期も半

ばを過ぎた学年途中であるにもかかわらず、新しいノートをクラス全員に準備して、一斉に家庭学習へのスタートを切らせることができた。教師のこの思い切りの良さが、子どもを動かしたことは間違いない。

そのうえに、平素の算数においても「わかる授業」が実現していて、その「わかる授業」にひきつづく算数の練習的な宿題や発展的な問題が家庭学習として位置づけられていて、子どもたちには抵抗なく迎えられた学習活動であったことも確かである。

万一「わかる授業」が実現されていないままに、家庭学習ノートだけが独走すると、子どもたちのエネルギーは学習内容に向かわずに、単なるノートの号数の多少をめぐる人間関係に向かってしまうことになる。その結果として、子どもたちのエネルギーは「荒れる学級」への道程を歩むために使われてしまう。子どもにとって（いや、人間にとって）、「学習内容（文化的内容）に取り組む活動」＝文化的活動こそが「人間らしい子ども」を育てるための唯一の方法であることを、教師は片時も忘れてはならない。

（4）評価の仕方の丁寧さと上手さ

日本語の「評価」の国語的な意味は、「一定の価値をめぐって評ずること」である。実際の教育活動にあてはめると、「子どもの活動の中にある良さや価値をあれこれと考え、定め述べること」である。評価に相当する英語の evaluation とは、e(make)+value+ation である。同様のドイツ語の Bewertung にしても、be(make)+Wert(value・価値)+ung であって、あえて厳密に日本語に訳すとすれば「価値付けること」である。

草野実践では、数多くの多種多様な評価の場面が設定されている。たとえば、

①新しいノートを配布したあとの表紙の文字を書くときの「丁寧さ」「文字の大きさや濃さ」「鉛筆の持ち方」などの机間指導のさいの教師の評価、

②ノートの答え合わせや提出時の、教師による評価の言葉や朱書き、

③1冊のノートを終わらせたときの教師の評価の言葉、

④子どもたちがお互いのノートを見合い付箋に書く相互評価など、

子どもの学習活動が「具体的な評価活動を通して」促進されていることである。

このことから明らかになることは、教師は目の前の子どもの現実の姿の中に「良さ·価値」を発見するプロ（専門家）でなくてはならないということである。

〈参考文献〉

○桒原昭徳「生活習慣・学習習慣」、恒吉宏典・深澤広明編『重要用語300の基礎知識②授業研究　重要用語300の基礎知識』、明治図書、1999年、p.151

○桒原昭徳『子どもの学習力ー新生児・乳幼児から小中学生までー』2004年

○『教育創造』No.108、北九州市教育委員会指導部・学校教育部

○文部省『小学校学習指導要領解説算数編』、1999年